

I. 本園の教育目標

「元気で仲良く」

- ・キリスト教の精神に基づき、ひとりひとりの子どもを「神と人から愛される」人として大切にし、子どもたちが未来に向かって生き生きと喜びを得ながら人生を歩むために必要となる力の根っこを育てる。そのために以下の項目を設定している。

①好奇心を育てる	人生の中で未知のものに接する機会はたくさんあります。丁寧・適時・適所を心がけて、時には慎重さを諭し、時には大胆さを励まし、未知と向き合う「意欲」と「好奇心」の根っこを育てます。
②考える習慣を育てる	大人の知っている最善を押し付けることが、子どもにとっての「今」の最善とは限りません。子どもの疑問を大切にしてい、子どもが自分で考え、試してみる「勇気」、「行動力」、「判断力」、「思考力」の根っこを育てます。
③自己主張を育てる	他律的な行動から、自分の考えを持ち主張することを大切にします。同時に、自分の言葉と行動が周囲に及ぼす影響を想像する「見通し」の根っこを育てます。
④協調性を育てる	社会で生きる上で必要な「協調性」を養い、異年齢の子どもと一緒に遊ぶことを大切にします。「共感」の経験から、「コミュニケーション能力」の根っこを育てます。「ありがとう」をたくさん伝え、「責任感」、「利他の喜び」、「自己肯定」の根っこを育てます。
⑤伸びしろを信じる	幼児期に育つのは、人生の基礎であり根っこの部分です。子どもたちがこの上に大きく人生を育てる「伸びしろ」を豊かに持っていることを信じ、大切にします。

II. 令和5年度重点的に取り組む目標・計画

「こどもとおとなの安心基地」を目指し、以下の5項目に重点的に取り組む。

1. 幼児教育の質の向上
2. 子育て支援
3. 地域との連携
4. 教職員のキャリアアップ
5. 少子化による園児減少への対策

Ⅲ. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し効果があった D…成果がなかった)

評価項目	評価	取り組み状況
1 幼児教育の質向上	A	① 年長クラスに課内活動として「かがくじかん」、「造形のじかん」を新たに開設し、特に「人間関係」、「言葉」、「表現」の領域における多様なアプローチを行い、興味関心と活動の充実促す。
	C	② 「Kid's Foot Laboratory」を導入し、特に「健康」の領域において、成長段階と課題を数値化して保護者へ情報提供を行うと共に、保育計画へ生かす取り組みを行う。
	C	③ 教職員が積極的に研修に参加し、幼稚園教職員として更に専門性を深める。
	D	④ ICT化を推進する。
	C	⑤ 安全な保育環境を作るために環境を改善する。
2 子育て支援	C	① お弁当宅配サービスを導入し、保護者の就労や子育てを支援する。
	B	② 通常の預かり保育を充実させ、保護者の就労や子育てを支援する。
	B	③ 長期休み期間の預かり保育を行い、保護者の就労や子育てを支援する。
	B	④ 課外活動を充実させ、保護者の就労や子育てを支援する。
	A	⑤ 保護者の負担を軽減するために、キャッシュレス決済を導入する。
	A	⑥ 園庭開放の日を増やし、内容を充実させる。
3 地域との連携	D	① 地域の子育てネットワークや行事へ積極的に参加する。
	D	② 地域の異業種の取り組みに協力し、地域における幼稚園の役割を拡大する。
	C	③ 休園日に地域の活動に教室を貸し出す。
4 教職員のキャリアアップ	B	① 幼稚園教師以外の分野で、幼児期の子どもの育ちや保護者の子育てに関わるさらに広範な知識や資格を得る。
5 少子化による園児減少への対策	C	① 幼稚園のイメージの刷新のためブランディングを行う。
	B	② ポスター、パンフレットを刷新し地域に掲示配布する。
	B	③ SNSを利用して、幼稚園の情報を外部に発信する。

IV. 総合的な評価結果

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し効果があった D…成果がなかった)

評価	理由
C	ICT について研修は行ったが、現場へ生かされていない。 お弁当サービスを導入したことは良いが、見た目や味付けが子ども向けでない日もあり、メニューが改善されるとさらに良い。 導入したてのものもあり、はっきりと効果が見えない部分もあり、今後も継続して取り組む必要がある。

V. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み
1	幼児教育の質向上	① 課内活動の「英語あそび」、「体育あそび」、「かがくのじかん」、「造形のじかん」の内容を充実させる ② 園内の環境について話し合い、幼児の安全と発達に添った環境構成に取り組む ③ 特別支援教育のための支援体制を整備する ④ 教職員の研修の充実と共有をすすめる ⑤ ICT 化を推進する ⑥ 「Kid's Foot Laboratory」を継続し、成長の見える化に取り組む
2	子育て支援	① プレ保育活動を始める ② 園庭開放を拡充する ③ 預かり保育を拡大する ④ 東京都の「多様な他者との関わりの機会創出事業」に取り組む
3	地域との連携	① 「誰でも通園制度（仮称）」に取り組む ② 休園日の園庭・教室を地域活動のためにお貸しする
4	園児減少への対策	① 幼稚園のブランディングに引き続き取り組む ② 幼稚園のホームページを刷新する ③ SNS を活用した幼稚園の情報発信を行う ④ 入園説明や園見学の機会を多く持つ
5	キャリアアップ	① 教職員のキャリアアップを支援する

## VI. 学校関係者評価委員会の評価

- ・様々な面で工夫、努力していることがわかる。Kid's Foot Laboratory の取り組みに成果が出ると良い
- ・課内活動「かがくのじかん」「造形のじかん」が導入され、教育の質の向上が実現できたと思う。
- ・お弁当サービスの導入や預かり保育、課外活動の充実などの保護者支援が進んだことも良かった。
- ・パンフレット、ポスター、看板などが新しくなり、SNS の発信も充実したことで新入園児数の増加につながったと思う。
- ・先生方の園児に対して取り組む姿勢はとても優しく、一人ひとりをよくみていると感じる。
- ・昨年から継続している臨床心理士の派遣は今後も継続してもらいたい。
- ・食育への取り組みを継続してもらいたい。栽培以外の工夫があってもよい。
- ・幼児教育の質向上への取り組みや子育て支援への取り組みに努力している様子が伺える。
- ・課内活動の内容充実への取り組み、園内環境安全への取り組み、 Kid's Foot Laboratory の導入、預かり保育での子育て支援等、高く評価する。
- ・キリスト教精神に基づいた子どものすこやかな成長を望む。